

# アメリカの服飾教育

—カリキュラムに表われた特性について—

神田美年子

- I はじめに
- II 服飾関係の教育機関
- III 各教育機関のカリキュラム
- IV カリキュラムに表われた各校の特性
- V むすび

## I はじめに

「歴史の浅い国、宮廷のなかった国、そういう国に美しい服装が生れるはずがない。」こんな考え方が、いつの間にか婦人服はフランス、紳士服はイギリス、既製服はアメリカというように、一般常識をつくったのであろう。なるほどアメリカでは、ヨーロッパや日本のように、デリケートな服装エチケットは大した問題ではなく、またヨーロッパや日本のような形式主義的な生活とは異った、自由主義的生活態度が、おのづから服装に関する考え方を、合理的、実用的方向へ発展させたものと考えられる。それらはさらに、アメリカ機械産業の発達と相俟って、今日における98.5%の高率を示す一大既製服産業国をつくりあげたのであるが、一方映画やテレビを通して、アメリカファッションデザインは漸くにして、世界の脚光を浴びようとしている今日、服飾に関する教育が、如何なる教育機関で、如何なる内容で行われているか、またその教育効果等について、筆者が実際に見聞し、調査したことを報告する。

## II 服飾関係の教育機関

筆者が訪門した服飾関係の教育機関のうち、主なものは次の通りである。

Massachusetts College of Art	(マサチューセッツ美術大学)
Parsons School of Design	(パーソンズデザイン学校)
Mccall's Corporation	(マッコール株式会社)
Northwestern University	(ノースウエスタン総合大学)
University of Wisconsin	(ウイソコンシン総合大学)

Woodbuly College	(ウッドベリー大学)
Chouinard Art School	(シュナード美術学校)
University of Hawaii	(ハワイ総合大学)

はじめに述べたように、アメリカの衣服の殆んどは既製服によるものである。すなわち画一化され、標準化され、機械化されたアメリカにおいては、日本のように各家庭で、各自が個人の衣服を製作するというようなことは必要でなく、むしろアメリカの社会政策にそわないことになる。衣服はあくまでも生産品であり、商品として扱われるのであるから、これらの分野において必要な知識を教育に求めることになる。したがって、服飾関係の教育機関は、社会の要望に応じるべく、その教育目標にも、それぞれの地方における産業の色彩が織り込まれているようである。

アメリカの教育機関を類別すると、州立及び私立の総合大学家政学部における服飾関係の学科及び専攻科、美術専門大学における服飾デザイン科、その都市の要望に応じて併設された私立大学のファッションデザイン科、3年制の服飾デザイン専門学校、日本の洋裁学校に類する服飾研究所などがある。家庭の主婦が、趣味として衣服を製作する場合は、主として、ファッション雑誌、パターン・メーカー、ミシン販売会社等の講習会を利用している。

以上の各教育機関における服飾教育は、その目的は異なっているが、ファッション産業と服飾教育との密接な関係において、ファッション産業の集中は、ファッション学校の集中となり、学校の所在分布は東部に多く、ボストン、ニューヨーク、フィラデルフィアを結ぶ各都市に集っている。中部ではシカゴを中心に、西部ではロスアンゼルスが中心になっている。

### Ⅲ 各教育機関のカリキュラム

各教育機関には、それぞれの学校の設立規準に従い、各学校の目的使命に即応した科目組織の編成が行われている。そのカリキュラムの代表的なものについて報告する。

#### ◎ ウィスコンシン大学家政学部

この学校はシカゴから飛行機で45分、湖と森に囲まれた静かな学校町、マディソンにある州立の総合大学である。この学校の家政学 (School of Home Economics) は内容が充実していて、高度の教育が行われている点で、日本でも高く評価されている。

カリキュラムは、4年間の課程で、高等教育と専門教育を兼備すべく組織されている。家政学において学士となるには、家政学における最低30、最高48の履習単位とともに合計124単位が必要とされている。また家政学に共通である教養の必要科目は、その専攻科目と、選択科目に割り当てられた単位数以外で、63~64単位とらねばならない。すなわち最初の2年間において、専攻の知識分野における広汎な背景と、共通の学習機会が与えられる。この体験と探究を基礎にして、学生達は3学年の始めに、家政学の中から、自分の専攻する科 (Major) を選択するのである。

アメリカの服飾教育—カリキュラムに表われた特性について—

この学校の家政学には5つの学科 (Department) と12の専攻科 (Major) があって、そのうち服飾関係の学科は、関連美術学科及び織物と衣服学科の2学科 (Department) で、織物と衣服学科には、「一般織物と衣服専攻科」、「小売専攻科」、「織物化学専攻科」の3つの科 (Major) がある。家政学全専攻科共通のカリキュラムは次の通りである。

University of Wisconsin  
第1表 家政学全専攻科共通のカリキュラム

学 科 目	必 修 単 位	最低取得単位
一般教育科目		12
人 文		
英 語 (1a)	6	
文 学 (1b)	6	
社 会 科 学		14
アメリカ史 (1)	3	
経 済 学 (1)	4	
心 理 学 (1)	4	
社 会 学 (1)	3	
自然科学・生物学		16~17
化 学 (1a)又は(5)	4~5	
生 理 学 (1)	4	
補 足 科 学	8	
計		42~43
体 育		0
体 育 (1期)		
専 門 科 目		22
食 物 関 係		
食 物 と 栄 養		
—食物と栄養の手引	3	
家 政 一 般 関 係		
家 政 学		
—家政学でのオリエンテーション	1	
家 庭 管 理 及 び 家 族 関 係		
—育児学	2	
—家族関係	2	
—家庭管理	2	
—家庭経済	3	
被 服 関 係		
関 連 美 術		
—デザインの基礎	3	
—家庭計画におけるデザイン	3	
織 物 及 び 衣 服		
—織物と衣服	3	
計		64~65

「備 考」

英語……選択の英語コースを選ぶ学生には、英語(1b)はとらなくてよい。

歴史……経済学(1)と3単位のアメリカ史講座の組合せでUnited States History and Institutesにおけ

アメリカの服飾教育—カリキュラムに表われた特性について—

る総合大学資格を満たすことができる。

化学……ハイスクールで化学を履習したものは、化学(5)の方を履習せねばならない。

家庭管理……School of Home Economics の執行委員会によって、代理のコースが認められない限り、18日間Home Management Houseで寄宿生活を送らねばならない。

以上が家政学全専門学部共通のカリキュラムである。このカリキュラムで注目される点は、備考にある

(1) ハイスクールで化学を履習した者と、しない者とが区別されている。

(2) 家政学部の執行委員会によって、代理のコースが認められない限り、18日間の寄宿生活を送らねばならない。

の2点で、(1)はハイスクールとの関連性を、(2)においては、「家庭管理」を重くみている。

**関連美術学科 (Department of Related Art)**

この学科は人間の物理的、環境の美的局面と室内装飾、服飾、織物デザイン、手芸等における創作的能力の発達に関する、美術的研究を望む学生のためのものである。家政学全専攻学科に共通な教養必要科目の中で、先述の教養科目に加えて、この科に特有な必要科目は次の通りである。

第2表 University of Wisconsin  
関連美術学科カリキュラム

学 科 目	必 修 単 位	選 択 単 位	最低取得単位
一般教育科目			8
補足科学			
細菌学 (1)		4	
生化学 (3) (103)		4~5	
植物学 (5)		5	
化学 (1b)		5	
物理学 (65a-b)		6	
動物学 (1)		5	
専門科目			18
関連美術			
一室内装飾	2		
一服飾	2		
一織物デザイン又は装飾的織物	3		
織物と衣服			
一織物化学	3		
補足単位 (ここから選択)			8
芸術			
芸術教育			
芸術史			
家政教育及び普及 (Extention)			
園芸			
用器面			
関連美術			
織物と衣服			
選 択 科 目			41~43

**織物並びに衣服学科 (Department of Textiles and Clothing)**

この学科は「一般織物並びに衣服専攻科」「小売専攻科」「織物化学専攻科」の3つの専攻科 (Major) に分れている。各専攻科のカリキュラムは次の通りである。

(1) 一般織物並びに衣服専攻科 (General Textiles and Clothing Major)

この課程は織物及び衣服全般に、広汎な興味を示す学生のためのものである。この専攻科に特有な必要科目は次の通りである。

**第3表** University of Wisconsin  
一般織物並びに衣服専攻科カリキュラム

学 科 目	必 修 単 位	最低取得単位
一般教育科目 補 足 科 学 細 菌 学 化学又は生化学	4 4～5	8～9
専門必修科目 関 連 美 術 —衣服デザイン 織 物 と 衣 服 —織物と衣服実験 —服 装 史 —衣料経済学 —最進ドレスデザイン	2 3～5 3 2 3	16～18
選 択 科 目		40～45

(2) 小売専攻科 (Retailing Major)

この課程は商業に関心を持つ学生のためのものである。この専攻科特有の必要科目は次の通りである。

**第4表** University of Wisconsin  
小 売 専 攻 科 カ リ キ ュ ラ ム

学 科 目	必 修 単 位	最低取得単位
一般教育科目 補 足 科 学 細 菌 学 化学又は生化学	4 4～5	8～9
専門必修科目 商 学 —マーケティング —小 売 販 売 関 連 美 術 —衣服デザイン 織 物 と 衣 服 —織 物 化 学 —織物と衣服実験 —衣 料 経 済 学 —売買における織物	3 3 2 3 3～5 2 3	25～27
選 択 科 目		31～36

(3) 織物化学専攻科 (Textile Chemistry Major)

この課程は織物分析, 研究, 育成に関心を示す学生を対象としている。これを専攻する場合のこの科に特有な科目は次の通りである。

第5表 University of Wisconsin  
織物化学専攻科カリキュラム

学 科 目	必 修 単 位	選 択 単 位	最低取得単位
一般教育科目 補足科学 細菌学 化学又は生化学	4 4~5		8~9
専門必修科目 織物と衣服 —織物化学 —織物衣料実験 —服装史 —衣料経済学 —織物分析技術	3 3~5 3 2 2		13~15
選択科目			38~43

以上がウイスコンシン大学家政学部の服飾関係学科及び専攻科のカリキュラムである。

◎ ノースウエスタン大学家政学部

この学校はシカゴ市内から車で約40分, ミシガン湖畔エバンストンの町にある, 古い歴史と伝統を持つ私立の名門校である。最初女子大学として誕生したが, 時代の要望に応じて現在は男女共学の総合大学に発展しているが, 家政学部は他学部と比べると, 比較的小規模で, 家政学を選ぶ学生も少ないとのことである。家政学部は次の5つの専攻に分れている。

家庭経済 (Family in the Economy)

住居と造作 (Family Housing and Furnising)

食物, 栄養, 病院栄養 (Food, Nutrition, Hospital Dietetics)

人間の発育と家族関係 (Human, Development and Family Retationship)

織物及び衣服 (Textiles and Clothing)

このうち服飾関係は織物及び衣服の1学科だけで専門の学科目のカリキュラムは次の通りである。

・衣料と織物 (4単位)

衣料の購入, 構成, 使用に関する経済的, 社会的, 心理的要因の研究。

・服装史 (4単位)

大昔から現在までの美学的, 経済的並びに社会的動向に関する服装の分析。

・織物 (4単位)

繊維, 織物, 完成品の研究と織物に関係せる標準, 商標, 法律。

・衣料及び織物の特別問題 (4単位)

アメリカの服飾教育—カリキュラムに表われた特性について—

・進んだ衣料デザイン及び織物の個別的問題等である。

◎ ハワイ大学農家政学部

この学校の農家政学部 (College of Tropical Agriculture) は農学科と家政学科によって組織され、家政学科は次の5つの専攻科によって組織されている。

- ・一般家政学 (General Home Economics)
- ・家庭管理 (Institutional Management)
- ・衣服デザイン (Clothing Design)
- ・家政学教育 (Home Economics Education)
- ・食物と栄養 (Foods and Nutrition)

衣服デザイン専攻科のカリキュラムは次の通りである。

第6表 University of Hawaii  
衣服デザイン学科カリキュラム

学 科 目	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	最低取得単位
一般教育科目 一人英語文語学	6	3 3		3	15
社会科学 アメリカ経済史入門 心理学社会学 社会学社会学		6 3	3 3 3 6		24
科学 実験科学学	6~8				6~8
体育 保健体育	2 2	1 2			7
専門科目 食物関係 食糧一般入門又は食物準備 家政一般関係社会学 オリエンテーション 家族住宅及び家具学 子育てインテグレーション 家庭経済学 衣服の選り方成 衣服の構造 デザインの基礎理論 ファッションデザインとスケッチ ブロック・パターン・デザイン 高等ブロック・パターン・デザイン 織物デザイン 繊維レイピング ドレーピングの創造 スタジオにおける衣服デザイン 高等ファッションデザイン及びスケッチ	1     3 3 3 4	2~3  3  4 3 2 2 2	3  3  3  4 3 3	3 3 3  6 2	2~3 16  50  13~15
選択科目			3~4	10~11	13~15

アメリカの服飾教育—カリキュラムに表われた特性について—

◎ マサチューセッツ美術大学

この学校はボストン市にある州立の美術大学で、教育、産業の発達のために設立された学校である。ファッションデザインその他、広告、陶器、絵画等のデザインを専門とした美術専門大学である。そのカリキュラムは次の通りである。

第7表 Massachusetts college of Art  
各専攻科共通のカリキュラム

第 1 学 年			第 2 学 年		
学 科 目	時 間	単 位	学 科 目	時 間	単 位
アメリカ史	3	3	窯業史	3	2
美術史	2	2	美術史	2	2
色彩	6	4	建築	3	2
構図	2	1	構造	5	3
デザイン	6	3	デザイン	3	2
デザイン(レターリング)	3	1	デザイン	3	2
製図	6	2	製図	6	2
製図(a)	3	1	生活デッサン	3	1
製図(c)	3	1	さし絵	3	2
英文	3	3	英語	3	3
器械製作	2	1	器械製図	2	1
模製作	3	1	模製作	3	1
絵画	6	2	絵画	6	2
遠近画法	2	1	写真	3	1
社会学	2	2	心理	3	3
建築デザイン	3	2	建築デザイン	3	2
水彩	6	2	水彩	3	1
計	60	32	計	57	32

第8表 Mascachusetts College of Art  
ファッションデザインとイラストレーション科

第 3 学 年			第 4 学 年		
学 科 目	時 間	単 位	学 科 目	時 間	単 位
美術史	3	3	美術史	2	2
衣服構成	11	5	衣服構成	12	6
服装研究	3	2	構成の歴史	1	1
展示デザイン	3	1	デザイン	3	2
経済学	2	2	(レイアウトとレターリング)		
英語	3	3	英語	2	2
ファッションデザイン	6	3	英語	1	1
ファッション画	11	6	ファッションデザイン	6	3
a			ファッション画	12	6
b	6	2	生活デッサン	6	2
生活デッサン	3	1	人間性	2	2
売物	3	2	室内装飾	2	1
織物	3	1	絹装飾幕	3	1
水彩	3	1			
計	60	32	計	58	32

◎ ウードベリー大学ファッションデザイン専攻科

この学校は商科大学として、ロスアンゼルス市に誕生した私立の大学である。この都市は映



アメリカの服飾教育—カリキュラムに表われた特性について—

面の都ハリウッドを控え、映画やテレビが衣服の上にも反映して、衣服産業の発達が目覚ましく、それらの産業の必要性にせまられて職業芸術学科が併設されたのである。職業芸術学科は、商業美術、広告、ファッションデザイン、室内デザイン等の科 (Major) に分れ、これらの専攻者には、職業芸術学士の学位が与えられる。ファッションデザイン専攻科のカリキュラムは次の通りである。

第9表 Woodbuly College  
ファッションデザイン科 (一般教育科目)

学 科 目	必 要 単 位	選 択 単 位	最低取得単位
人 文			12
講 読	4		
哲 学			
—美 学	4		
—倫 理 学	4		
科 学			8
自 然 科 学 (I)	4		
自 然 科 学 (II)	4		
社 会 科 学			29
經 済 学			
—經 済 学 原 理	4		
歴 史			
—西 洋 文 明 史	4		
—西 洋 美 術 史	4		
—東 洋 美 術 史	4		
—服 飾 史	4		
政 治 学			
—アメリカ政治の研究	4		
—カリフォルニアの地方行政	1		
心 理 学			
—心 理 学 入 門	4		
語 学 と 通 信			11
英 語			
—英 作 文	4		
—高 等 英 作	4		
会 話			
—口 頭 伝 達	3		
選 択 科 目 (2 科 目 選 択)			8
時 事 問 題		4	
論 理 学		4	
劇 評		4	
ア メ リ カ 史		4	
ア メ リ カ 文 学		4	
社 界 学		4	
近 代 美 術 史		4	
社 界 学 入 門		4	

アメリカの服飾教育—カリキュラムに表われた特性について—

第10表 Woodbury College  
ファッションデザイン科カリキュラム (専門科目)

学 科 目	必 修 単 位	選 択 単 位	最低取得単位
専 門 必 修 科 目			56
ファッション分析	3		
衣服構成	3		
型紙製図	3		
個々の衣服のデザインと構成	3		
演出者(放送)のデザインと構成	3		
顧客のデザインと構成	5		
フランスのドレーピング	5		
ドレーピングのあるデザイン	5		
織 物	3		
テ イ ラ ー	5		
型紙の格付けと製品設計	5		
創作的ファッションデザイン	5		
高等ドレイプデザイン	5		
ファッションデザイン臨床構成	3		
選 択 科 目 (3科目選ぶ)			9
劇 衣 装		3	
子供服のデザイン		3	
アクセサリーのデザイン		3	
ランジュリーのデザイン		3	
婦人装身具のデザイン		3	
デ ザ イ ン 画			25
色 彩 学	5		
ス タ イ ル 画	5		
ファッションスケッチ	5		
ファッション画	5		
最近のファッション画	5		
計			90

第11表 Woodbury College  
ファッションデザイン科業務管理カリキュラム

学 科 目	必 修 単 位		
専 門 必 修 科 目			16
広 告 原 則	4		
基本セールスマンシップ	4		
商 業 語 と 伝 達	4		
会 計 原 則	4		

「備考」

この他に選択科目から12単位選ばなくては規定の186単位にならない。

選択科目は経営、報道、芸術、経済、音楽など広範に亘っている。

◎ パーソンズデザイン学校

この学校はニューヨークにある私立の3年生のデザイン専門学校で、ニューヨーク大学の管理下にある。この学校の卒業生で、学士号を得たい者は、ニューヨーク大学で、一般教養科目の単位を取得することができる。ファッションデザイン、ファッションイラストレーション、

アメリカの服飾教育—カリキュラムに表われた特性について—

グラフィックデザイン, 工芸デザイン, 室内装飾などの専攻がある。そのカリキュラムは次の通りである。

第12表 Parsons School of Design  
ファッションデザイン科カリキュラム

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年	
学 科 目	単 位	学 科 目	単 位	学 科 目	単 位
美 術 史	3	美 術 史	1.5	デ ザ イ ン	3
ド レ ー ピ ン グ	3	ドレーピング (前期)	} 8.5	ド レ ー ピ ン グ	4
ファッション・リサーチ	1.5	批 評 問 題 (後期)		批 評 問 題	6
ファッションイラストレーション	3	ファッションイラストレーション	1.5	ファッションイラストレーション	3
着 衣 画	3	着 衣 画	1.5		
人 体 画	3	型 紙 製 図	3		
		織 物 (前期)	1		
計	16.5		前期 17 後期 16		16

Ⅳ カリキュラムに表われた各校の特性

カリキュラムは、その学校の目的使命に即応するべく組織され、編成されるのであるから、カリキュラムにその学校の性格、教育目標、特色等が表われるのは、当然のことといえよう。アメリカの服飾関係の教育機関におけるカリキュラムにも、それぞれの学校の教育目的や、特色を知ることができる。以下各学校のカリキュラムから、その学校の特性を考察してみる。

I 総合大学家政学部における服飾関係学科

◎ ウィスコンシン大学家政学部

まず「関連美術学科」という名称に、この学科の特異性が感じられる。この学科では、主として室内装飾、服飾、織物デザイン、手芸等の創作的能力の発達についての研究をすることが目的とされている。就職機関は、一般的にはデパートや特殊スタジオのデザイナー、あるいは色彩コンサルタント等である。

「一般織物と衣服専攻科」の特有な必要科目に、衣服デザイン、織物化学、織物と衣服実験、服装史、衣料経済学、最進ドレスデザイン等があるが、これらは主として、衣服を消費科学的立場から研究することに目的がおかれている。したがってこの科を専攻した者は、製造業者や商社における消費者教育や、パブリック・リレーションズ (P. R) 又は大学教育協同普及機関 (Cooperative Extension Service) に就職することができる。

「小売専攻科」には小売売買、売買における織物等の講座があるが、小売業として、客へのサービス、売買、仕入れ等においても、衣服や織物に関する知識が必要であることを指摘し、それらを背景としての小売商法の研究が行われているように考察される。この科の卒業生は、年少支配人訓練課程 (Junior executive training Programs) に入ったり、ファッション、購入、人事、営業成績等の仕事に就職することができる。

アメリカの服飾教育—カリキュラムに表われた特性について—

「織物化学専攻科」の専門科目には、織物化学、織物衣料実験、衣料経済学、服装史、織物分析技術等が組織されているが、織物の化学的、物理的性質、繊維の研究、分析技術の習得など織物に関する化学的知識を習得するための研究に重点がおかれている。卒業生は、小売店、通信販売、行政局、繊維並びに織物製造業、洗剤製造業、仕上げ工場の実験室などに迎えらる。また将来繊維や、織物における学士研究に、基礎的準備を与えるものである。

以上この学校の家政学部にある、服飾関係各専門コースのカリキュラムから、その特性を考察したが、いずれの科においても、衣服工作とか、衣服実習等の技能面に関する科目はあまりみられず、衣服や織物を生産品として、消費の立場から科学的に研究し、その基礎的知識を卒業後においても、それぞれの職域において生かし得るよう考慮されている。すなわち教育が産業に直結するところの職業教育とみなしてよかろう。したがって、各専攻科とも一般教育学科目に、自然科学の単位が多いこと、衣料経済学と織物化学が必修になっている点などが特色といえよう。また選択科目に巾を持たせてあることにも、この学校の性格がうかがわれる。

◎ ハワイ大学農家政学部

服飾関係学科である「衣服デザイン専攻科」のカリキュラムは、各学年ごとに組まれているが、一般教育科目の人文、社会科学、自然科学のうち、自然科学の単位数が少なく、社会科学の単位数の多いのが目立つ。これをウイスコンシン大学家政学部のと比べると次表のようである。

学校名	一般教育科目			計
	人 文	社会科学	自然科学	
ウイスコンシン大学	12	14	16~17	42~43
ハ ワ イ 大 学	15	24	6~8	45~47

ハワイ大学の社会科学関係科目に、経済学と基本会計学がそれぞれ6単位あることは、この学校の特色である。その他専門科目においてもマーケティング3単位がある。（これも社会科学関係科目と見てもよい）また衣服関係の科目には、服装史をはじめ、衣服選択の要因、消費者購買科学のような、既製服の選び方、買い方のほか、型紙の使用法、製図、縫製等の衣服工作に関する科目、さらにデザインに関するデザイン基礎理論、視覚デザイン、ドレーピング、ファッションデザインとスケッチ、織物デザイン等広汎に亘って編成されている。最終学年においては、「スタジオにおける衣服デザイン」が6単位あるが、これは一種の臨床実習のようなもので、衣服の集散所において観賞し、批評するものである。

以上の特性を要約すると、この学校の「衣服デザイン科」における教育目的は

- 1) 家庭及び家族の社会的、物理的、美的局面に固有な理解力、分析能力、判断力を増強することに重点がおかれている。
- 2) 経験を通して増強され得る学士研究や、専門的資格のための準備的基礎教育である。即ち、教育目的が専門的職業教育に集中されているのではなく、家庭人として消費者的立場にあ

るための一般知識を習得することを目的としているように考察される。

## Ⅱ 専門大学における服飾関係専門学科

### ◎ マサチューセッツ美術大学

この学校のファッションデザイン及びイラストレーション (Illustration) 専攻科のカリキュラムに表われている特色は、1, 2 学年で芸術の基礎的訓練を身につけ、それを背景として3, 4 学年で専門教育に専念できるような方針である。しかし1, 2 学年の一般教育科目にしても、総合大学で編成されているような人文、社会科学、自然科学の関係科目は非常に少なく、英語、社会学、心理学の3科目が各2~3単位あるだけで、美術史、色彩、構図、デザイン、製図、器械製図、模型製作、絵画、遠近画法、建築デザイン、水彩等の専門科目的色彩の濃い科目が多い。高学年になるとそれぞれの専門における必要な科目、すなわちこの学校では、美術史、衣服構成、服装研究、展示デザイン、ファッションデザイン、ファッション画、生活デザイン、室内装飾、織物、水彩、絹幕等の科目が組まれてある。これらについて考察すると完全な職業的専門教育といえよう。卒業生には美術学士の称号が与えられ、それぞれの職域で活動している。

### ◎ ウードベリー大学

この学校は前述のように、地域産業の要望によって設立された学校であるから、そのカリキュラムは専門的、職業的であることはいうまでもない。それにしても4年間の課程の範囲分配は、

一般教養	17コース	68単位
ファッションデザイン	22コース	90単位
業務管理	4コース	16単位
選択科目	5コース	12単位
計	48コース	186単位 (最低)

で、実に多量な科目と単位が配分されている。科目の内容は広汎に亘り、ファッションデザインは次のように分化している。

- a) ファッション分析
- b) 個々の衣服のデザインと構成
- c) 演出者 (放送) のデザインと構成
- d) 顧客のデザインと構成
- e) ドレーピングのあるデザイン
- f) 高等ドレイプデザイン
- g) ファッションデザイン臨床構成
- h) 劇衣裳のデザイン
- i) 子供服のデザイン
- j) アクセサリーのデザイン

k) 婦人装身具のデザイン

等、各3～5単位が必修になっている。ファッション画にしても、

- a) 色彩学
- b) スタイル画
- c) ファッションスケッチ
- d) ファッション画
- e) 最進のファッション画

等に分類され、各5単位が必修になっている。またこの学校の母体が商業大学であることも原因してか、衣服産業に必要とみなされる広告原則、基本セールスマン・シップ、商業語、会計原則など業務管理として専門的に取りあげられている点も特色といえよう。またこれほど専門的職業教育をする学校であるのに、一般教育科目が17コース、68単位あることも特筆してよからう。

ロスアンゼルス市の街には、映画とテレビの産業が、服装の一大センターとして光輝をそえ、500以上の大小の服飾工場が存在している。また映画スターたちのための衣裳のデザインをするために、世界的に有名な服装デザイナーや、裁縫師たちが集まっている。そこで学生たちは、これら専門デザイナーによる、デザイン臨床構成などの行われる機会を持つことができるのである。この学校の卒業生の、卒業後の職業を調べてみると、

- アクセサリーのデザイナー
- ブラウスのデザイナー
- 子供服のデザイナー
- 衣服の製造販売業者
- 裁縫師
- 布類の販売業者
- ファッション記者
- ハンドバッグのデザイナー
- 婦人下着のデザイナー
- 婦人帽子のデザイナー
- 型紙メーカー
- スポーツ服のデザイナー
- スタイル・コンサルタント
- 演劇・映画などの衣裳デザイナー
- 男子服の裁縫師
- ワードローブ・デザイナー
- ワードローブ・マネージャー

等実に広範な職種に分化されている。このように分化した職業につかせるためには、学校も相当熱心に力を入れなければならないだろう。いづれにしても、地域産業と直結した学校教育の在り方を、明確に特色づけている学校であるということが出来る。近年日本からの留学生も多いとのことであった。

### Ⅲ 服飾専門学校における服飾教育

#### ◎ パーソンズデザイン学校

3年制のデザイン専門学校であるが、このカリキュラムによると、プロフェッショナルなデザイナーとしての経験をもつために、学生のオリジナルデザインに関して、また仕事の技術的の局面に多くの時間を費し、クラフトマン・シップの養成に留意している。ファッションデザイン科では、ドレーピング、裁断、仮縫、着付、型紙製図、仕上げ等に重点をおいているが、各科ともに訓練の最終的段階においては、批評家の助言を受けながら、ファッションデザイナーのプロフェッショナルな問題を、じかに接触することのできるような機会が、与えられている。各学年に人物描画とイラストレーションがあることにも注目したい。またファッション・リサーチ、テキスタイルの学科においては、ファッション・リサーチは博物館、美術館などを利用して、服装の歴史的、社会的背景の調査と講義が行われ、テキスタイルにおいては、デザイナーの観点から、繊維の特性について研究するというような、ファッションデザインの背景的分野、素材等についての研究に配慮がなされている。

以上カリキュラムに編成された学科目や、単位数から、その学校の教育目的や性格の大略を知ると同時に、アメリカの服飾教育の方向を理解することができた。

## V む す び

アメリカの服飾教育について調査し考察したことを要約すると、

(1) 教育機関は、総合大学家政学部の服飾専攻学科、又は服飾専攻科、専門大学の服飾関係の専攻科、ファッションデザイン専門学校、服飾研究所、パターン・メーカー、服飾雑誌社、ミシン会社等の宣伝部等がある。

(2) 総合大学家政学部の服飾関係専攻学科、あるいは服飾関係専攻科におけるカリキュラムは、バラエティに富んでいて、その学校の特色を生かし、日本のように画一的でない。

(3) カリキュラムに編成された服飾関係学科の中に染色学がみられなかった。

(4) 各学校における服飾教育の目的は、その学校の地域環境、産業等に関連している。

(5) アメリカの衣生活に使用されている衣服の殆んどが、既製服であることを前提として、服飾教育が行われている。したがって、衣服を工作する技術より、衣服を生産し、消費する立場において、服飾教育がなされている。

(6) 大学や、専門学校において行われている服飾教育の多くは、職業的専門教育である。その専門分野はさらに細かく分化され、基礎理論を基本として、科学的に、理論的に研究されている。

(7) デザイン専門学校における、服飾教育の内容は、工作技術面よりファッションデザインに関するものが多い。

以上の諸点が、アメリカの服飾教育の特色であろうと考えられる。これらについて、わが国の現状を考えてみると、衣生活の傾向は、次第に機能化し、近代化されて、従来の和服から洋服への移行は、日を追って旺んである。一方、人体計測のデータに基づく衣服サイズの規準化や、縫製技術の機械化などによる既製服産業も、漸次合理化され、高級化されて、発達への一歩を辿っている今日、工作技術面に重点がおかれている現在の服飾教育について、検討する必要があることを痛感する次第である。

なおこの他、アメリカの服飾関係の教育分野に、教職関係 (Home Economics Education) と公開講座 (Home Economics Extension) があるが、これらについては、別の機会に報告する。